

2019年を振り返って

「心が一つにならなければチームとして機能しない」

『ONE TEAM』・・・2019 流行語大賞に表されるように日本中を感動の渦に巻き込んだラグビー日本代表。2019年日本は観測史上最大級の台風に相次いで襲われました。

そういう状況の中だからこそ、「ひたむきに」目標に向かい突き進む日本代表の姿は、忘れかけていた「献身」の姿勢と決してあきらめない「不屈」の精神を奮い立たせるものであったと思います。国籍を問わず招集したジョセフコーチは、「心が一つにならなければチームとして機能しない」と。

『ONE TEAM』は、世界的に排他的な傾向にあった中、強烈に心に響くカウンターメッセージであったと思います。



25日（水）は、ほとんどの小中学校で第2学期終業式が行われる予定です。式の中で児童生徒が第2学期の反省や今後の抱負を述べる学校も多いのではないのでしょうか。冬休みや新年への目当てをそれぞれがしっかりと持って、冬休みを迎えることを期待します。

教育事務所では25日（水）に所内大掃除を行う予定で、新年を迎える準備にも余念がありません。教職員課においても、いよいよ本格的な人事に取り組む構えを整えているところです。



さて、皆さんにとって2019年はどのような年であったのでしょうか。

「今年の漢字」第1位（日本漢字能力検定協会）は「令」でした。平成から令和になった今年。協会は「令」が選ばれた理由として、新しい元号の「令」和に明るい時代を願う国民の思いが集約されたとしています。2019年の干支は「亥」。2020年の干支は、「子」。

2020年は、東京で2回目のオリンピックが開催されます。日本にとって大きな節目となります。また、「子年」にあたり、再び新しい十二支のサイクルがスタートする年でもあります。

各学校においては、どのような成果を上げられたのでしょうか。学力向上、体力づくり、行事・諸活動の充実、大会成績、児童生徒の善行、家庭・地域連携等において、様々な成果を上げられたことでしょう。

これまでの取組を振り返り、詳細な分析を行い、成果や課題を明確にして第3学期に備えてほしいと思います。

【 教職員課の2019年を振り返って 】

- 1月～3月 全県下を視野に、市町教育委員会と緊密な連携を取り、人事異動作業に励む。
3月25日の人事異動発表を迎え、ようやく一息をつく。
- 4月 教職員課に4名の頼もしいニューフェイスを迎え、新体制で業務が進む。「1 しんどい仕事も『笑顔』で楽しく 2 checkは(評価も)16の瞳で 3 早く帰ろう!おうちへ帰ろう!」が、教職員課のキャッチフレーズ。
- 5月 史上最大の大型連休。「連休終わってくれてよかった。」と誰かが…。連休後の処理は大変です。
- 5月～7月 管理主事による学校訪問。各学校で温かく迎えていただく。児童生徒が生き生きと活動する姿、教職員が意欲的に指導に取り組む姿がうれしい。
「風通しの良い職場」を合言葉に。現場でも浸透。
『業務改善』・「お先に失礼します。」とまず、率先してニューフェイスの管理主事が…。颯爽と帰る姿が新しい!
朝方勤務形態にも積極的に取り組む!
- 7月・9月の教員採用試験では、「金の卵」探し。採用数が増に。
- 8月 平成30年度全国学力・学習状況調査において、県平均が小中学校共に全国平均を上回り、おおむね**目標を達成!英語は課題**。児童生徒や教職員の頑張りに拍手と感謝を。
- 9月 業務の合間を無理やり調整し、所内旅行で福岡へ。
所内旅行ができたことに感謝!
- 10月・11月 管理職選考審査。頼もしい「**ニューリーダー**」の**選考**を懸命に。
- 12月 再任用教職員や会計年度任用職員に対応。
年末の体調面ケアでは、管理主事や事務方が検診等で年休取得。それぞれが、健康に細心の注意を払いながら業務に専念している。



ありがたい!

業務改善を図るように現場にお願いしているが、まずは、我が職場から。**ストレス解消は、『職場での笑い』。 所長自ら率先して実践**



今年度、教職員の大きな不祥事もなく、無事新年が迎えらることは、教職員課にとって何より喜ばしいことです。御指導いただいている市町教育委員会、教職員を「理解し、守り、育て」いただいている管理職、自らを律し職務に励んでいる教職員の皆様にします。どうぞ、よい年をお迎えください。

